

複数図書館の OPAC を利用した蔵書評価の可能性

辻 慶太 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科: keita@slis.tsukuba.ac.jp)
芳鐘冬樹 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科: fuyuki@slis.tsukuba.ac.jp)

要旨: 本研究では複数の OPAC を用いて NDC 別の一般的な蔵書量, 利用の多い/少ない図書の特典など蔵書評価に有効な情報が得られることを示す。サンプルは 16 の公共図書館 OPAC とし, 2009 年 8 月から 2010 年 7 月にかけて計 4 回, NDC による検索で全蔵書データを入手した。結果, 蔵書比率は 9 類, 3 類が高いこと, 刊年が新しい図書は貸出率が高く, 所蔵館数が増えても古ければ貸出率は低いこと, 所蔵館数が増えた図書は多少古くても貸出率が高いことなどが明らかになった。

1. はじめに

現在, 日本の公共図書館員が自館の蔵書評価を行う際は, チェックリスト法やベテラン職員による直接観察法などを用いる場合が多い。この方法は有効であるが, 前者については利用できるリストが少ないという問題, 後者については主観的になりがちでコストもかかるという問題がある。さて近年多くの公共図書館が Web に OPAC を公開している。その中には NDC による検索が可能なものもある。NDC は基本的に有限であり, これを 000 から 999 まで逐次入力・検索すれば, その図書館の全所蔵タイトルを入手することができる。これにより NDC 別の一般的な蔵書量が把握でき, また OPAC によっては現在貸出中か表示するものもあるので, その情報を用いることで利用度の高いタイトルも把握することができる。さらに検索を定期的に行い結果を保存しておけばそれらの経年変化も追うことができる。もちろん図書館によってサービス提供方針や目的は異なり, 地域住民などサービス対象者の性格も異なる。だが日本の中で自館に類似した目的やサービス対象者を持つ図書館は他にもあるはずであり, それらの OPAC を利用すれば自館にとって参考になる蔵書構成バランスや人気タイトルが把握できる。そこで本研究では複数の図書館 OPAC を用いることで蔵書評価に有用な各種情報が引き出せることを示したい。本研究が提案する手法は, これまでにないチェックリスト法, 即ち常に新しくかつ経年的な厚みを持ったチェックリストに基づいて蔵書評価する手法と位置付けることができる。

2. 関連研究

公立図書館の経営調査委員会 (1997), 加藤 (2009) は公共図書館における NDC 別の蔵書冊数や蔵書回転率などを挙げ, 利用が多い/少ないタイトルや著者を具体的に示している点で

本研究に近い。ただ蔵書冊数や貸出状況に関するデータの多くは各館の人的協力を仰いで入手したものと思われる。それに対し本研究手法は人的負担を各館にかけず, 任意の時点で蔵書/貸出状況が把握できる点で異なっている。大学図書館の蔵書評価に関する調査研究としては石井啓豊ら (1995), 山中みどりら (2009) があり, 蔵書評価全般に関する解説としては河井弘志ら (1992), 岸田和明 (1994) がある。

3. 調査方法

調査対象図書館は「NDC で検索でき, かつ個々の NDC ごとに全所蔵タイトルを表示し, 貸出中か否か表示する OPAC を用いている館」とした。見つけ方は, (1) 日本図書館協会の公共図書館 HP リンク集からリンクを辿っていく, (2) 条件を満たす OPAC に特徴的な表現を用いて Google で検索する, の 2 通りを用いた。結果, 表 1 の 16 館を見つけ調査対象とした。これらの OPAC は全て同じ製品であった^{1 2 3}。

検索では NDC の 000 から 999 までを順次入力し, 自治体内の館が選べる場合はその市区の中央館を選んで検索した。調査時期は 2009 年 8 月, 12 月, 2010 年 3 月, 7 月の計 4 回である (以下それぞれを調査 1~4 と記す)^{4 5}。

¹ OPAC は NEC ネクサソリューションズによるものであった。各館に電話で尋ねたところ MARC は TRC9 館, 日販 7 館であった (昨年度まで大阪屋という館が 1 館あった)。

² サンプルが 16 館と少ないのは主に, (1) NDC からは検索できない, (2) NDC ごとに 1,000 件までしか表示しない, (3) 貸出中か否かを表示しない, OPAC が多かった為である。サンプルの少なさについては終章で述べる。

³ 表 1 の「蔵書冊数」は後述する調査 1, 即ち 2009 年 8 月時点での検索でヒットした蔵書冊数である。

⁴ 著者名については姓名の間に全角スペースを入れる/入れないという違いがあり, またある OPAC では「中央公論新社」とすべき箇所を一部「中央公論社」としているなど, 書誌データのマッチングには工夫が必要であった。

⁵ 同一の図書でも図書館によって付与する NDC が異なる場合がある。例えば『終の棲み家に翔べない理由』(中央公論新社) は 3 類に分類されることが多いが, ある市は 9 類に分類していた。

市区	蔵書冊数	市区	蔵書冊数
福島市	266,785	伊勢原市	143,682
大津市	240,492	八尾市	111,805
諫早市	200,754	井原市	77,070
座間市	198,077	新城市	73,973
船橋市	179,719	石岡市	68,811
新宿区	174,275	御所市	58,950
長浜市	151,406	鴨川市	48,080
台東区	150,333	八幡平市	38,670

表 1. 調査対象図書館

4. 結果と考察

以下では NDC 毎の蔵書比率や刊年別、所蔵館数別の貸出率等について述べる。

4.1 蔵書比率と貸出率

調査 1~4 における 16 館の NDC 別蔵書比率 (%) の最小値、中央値、最大値はそれぞれ表 2 のようになった。例えば 3 類の蔵書が全蔵書に占める割合の最小値は延べ 4×16 のサンプルにおいて 11.5%、最大値は 24.4%であることが分かる。同様に、調査時点で貸出中であった冊数が蔵書冊数に占める割合 (%) (以下「貸出率」) は表 3 のようになった。表 3 から例えば、3 類の貸出率は最小値が 1.2%、最大値が 6.6%であることが分かる。表 2, 3 から、蔵書比率は 9 類、3 類が高く、貸出率は 5 類が高いことなどが分かる。

NDC	最小値	中央値	最大値
0	2.8	4.3	9.1
1	2.8	4.3	6.4
2	6.9	11.5	16.0
3	11.5	16.0	24.4
4	6.2	7.6	10.4
5	3.9	8.1	11.8
6	3.2	4.0	4.9
7	7.8	10.7	14.0
8	1.8	2.2	3.1
9	9.0	28.7	47.5

表 2. 蔵書比率 (%)

NDC	最小値	中央値	最大値
0	0.3	1.5	4.4
1	2.2	5.1	12.3
2	1.2	3.5	11.4
3	1.2	3.1	6.6
4	1.4	3.9	9.1
5	2.4	6.9	18.1
6	1.5	4.4	10.2
7	1.5	4.2	13.4
8	1.0	4.5	11.5
9	1.3	2.9	8.3

表 3. 貸出率 (%)

4.2 刊年

刊年別の貸出率は表 4 のようになった。表 4 から例えば 2009 年から 2010 年にかけて刊行された 9 類の全蔵書 (4 調査時点全てにおける 16 館の蔵書) は延べ 57,166 冊でこのうち 31.2%が調査時点で貸出中であったのに対し、2005 年以前の蔵書は延べ 2,067,191 冊でそのうち貸出中であったものは 2.0%にとどまることなどが分かる。全般に貸出率は刊年によって大きく異なり、最近刊行されたものがよく貸し出され、5 年以上経った図書はほとんど貸し出されないことが分かる。

4.3 所蔵館数

所蔵館数が多い図書は評価の高い図書であり、貸出率も高いかもしれない。そこで所蔵館数別の貸出率を調べたところ表 5 のようになった。表 5 から例えば 11 館以上の図書館が所蔵していた 1 類の図書は、4 つの調査時点を通じて延べ 2,182 冊であり、そのうちの 10.8%が貸出中であったこと、逆に 5 類ではそのような図書が貸出中である

割合は 4.7%にとどまり、5 類では 2, 3 館しか所蔵していない図書の方が貸出率が高いこと (= 10.3%) が分かる。所蔵館数が多い方が貸出率が高い類は 1 と 6 の 2 つにとどまり、所蔵館数と貸出率の間に正の相関があるとは思えない類は 0, 5, 7, 8, 9 の 5 つに上った。所蔵館数が多くて貸出率が高いとは言えないようである。

4.3.1 所蔵館数と刊年の組合せ

4.2 節で貸出率と刊年には強い関係があることを見た。そこで所蔵館数が 11 館以上の図書の貸出率を刊年別にまとめたところ表 6 のようになった。表 4 の 2009 年から 2010 年に刊行された図書の貸出率と、表 6 の貸出率を比較すると、8 類以外いずれも表 6 における値の方が高い。例えば表 6 における 6 類の 2009~2010 年刊行の図書の貸出率は 78.7%に上るのに対し、表 4 における同様の貸出率は 25.6%にとどまる。それに対し表 6 の 2005 年以前に刊行された図書の貸出率と、表 4 における同様の貸出率を比較すると大きな差はない。以上、刊年が新しければ所蔵館数が多い (11 館以上) 方が貸出率が高いものの、刊年が古い場合は所蔵館数が多くて貸出率は特に高くないことが分かった。後者の原因については今後の課題としたい。

4.3.2 所蔵館数の増減と刊年の組合せ

調査 N と調査 N+1 (1 ≤ N ≤ 3) における所蔵館数を比較し、増えたあるいは減った館数と刊年別の貸出率をまとめたところ表 7 のようになった。表 7 から例えば 5 類の図書で所蔵館数が 1~2 館増え、かつ刊年が 2009~2010 年だったものは貸出率が 52.5%に上るのに対し、同じく 2009~2010 年刊行の図書でも所蔵館数が 1~2 館減ったものは貸出率が 25.3%にとどまることなどが分かる。全般に刊年が新しくても、「所蔵館数が減っている図書」は「所蔵館数が増えている図書」より貸出率が低い。また 2006~2008 年刊行というやや古い図書であっても、所蔵館数が増えている図書は、表 4 に見られる平均的な 2006~2008 年刊行の図書よりも貸出率が高い。例えば表 4 から、1 類で 2006~2008 年刊行の図書全体は貸出率が 19.9%にとどまるのに対し、これらのうち所蔵館数が 1~2 館増えた図書の場合は貸出率が 32.3%にのぼることが表 7 から分かる。以上は選書や除架の際に考慮すべき結果と言えよう。

4.3.3 個別図書の概観

14 館以上が所蔵し、どの調査時点でも 1 館も貸出中でなかった図書を NDC 別に 1 冊ずつ挙げると表 8 のようになる。比較的有名な図書も散見される。後述するが、表 8 で『文明の主役: エネルギーと人間の物語』『勘九郎とはずがたり』は所蔵館数を途中で減らしていることに注意されたい。

調査 1 ~4 のいずれかで 10 館以上で貸出中だった図書をいくつか挙げると表 9 のようになる。

表 9 から、新刊はよく貸し出され、その後貸出量が落ちることが分かる。個別に見ると『終の棲み家に翔べない理由』『炎情：熟年離婚と性』は貸出のピークを過ぎた感がある。同じく『天使と悪魔 上下』は刊年を考えるとこれまでよく頑張ったがそろそろ貸出が減ってきたと言えるかもしれない。今多くの貸出を求めて購入するとしたら『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』『日本経済の真実：ある日、この国は破産します』『体脂肪計タニタの社員食堂：500kcal のまんぷく定食』『ザ・万遊記』が良いかもしれない。

さて表 9 から『起きていることはすべて正しい...』は 2008 年刊行と若干古いにも拘わらず途中で所蔵館数を増やしていることが分かる。逆に『奇跡のリンゴ：「絶対不可能」を覆した農家木村秋則の記録』は調査 2 の時点では所蔵館 12 館のうち 10 館で貸出中であったが、調査 4 の時点では所蔵館は 11 館に減り、貸出中の館も 2 館に減っている。即ち、評価が高い図書は刊行後しばらく経ってから購入されるのに対し、人気落ちあまり貸し出されなくなった図書は所蔵館数がある程度多くても除籍されることが分かる。

4.3.4 所蔵館数とタイトル数

タイトル数の常用対数と所蔵館数に関するグラフを作成したところ図 1 のようになった。石井 (1990) は大学図書館における所蔵館数とタイトル数の間に Zipf の法則が成り立つことを見出しているが、本研究の公共図書館においては Zipf の法則というよりは所蔵館数と対数タイトル数の間に直線的な関係が成り立っている点が興味深い (特に所蔵館数が 2 から 13 の間にかけて)。所蔵館数が 15, 16 と大きくなると、対数タイトル数はこの直線から外れ、大きく落ち込む。これは先述のような購入のタイムラグと迅速な除籍の 2 点から説明できるかもしれない。即ち、所蔵館数が増える頃には図書としての魅力が落ち、貸出率が下がり、除籍の対象になることが影響しているのではないかと。

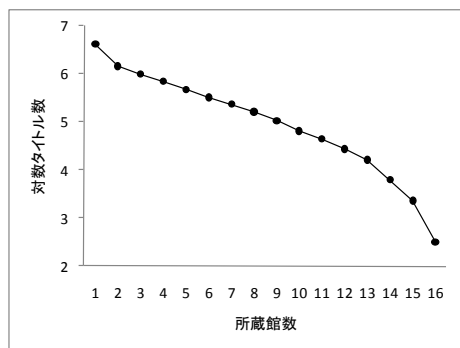


図 1. 所蔵館数と対数タイトル数

5. おわりに

本研究では複数の OPAC を利用して、NDC 別の一般的な蔵書量、利用の多い/少ない図書の特長、など蔵書評価に有効な情報が得られる可能性を提示した。だが様々な課題が残っていることは否定しない。本研究の問題点としては、(1)サンプルが少ない、(2)サンプルの代表性が明確でない、(3)絵本など NDC が付与されていない資料が扱えていない、(4)各館のサービス方針や目的の違いを考慮していない、(5)人口や産業など地域特性の違いを考慮していない、(6)サンプルが中央館のみになっており、分館を扱っていない、(7)複本、配架位置、禁帯出の図書、館内利用や相互貸借の量、貸出を行った利用者の属性を考慮していない、(8)貸出情報を表示しない OPAC もあり、そうした OPAC を用いている図書館をサンプルとして取り込む方向性が示せていない、(9)表 4 以降の集計方法は、相対的に規模が大きい館の傾向を強く反映する方法になっている、などがある。これらは全て今後の課題としたい。本研究では各館の OPAC にかかる負荷を考え、NDC で検索する方法を採ったが、もし負荷を考慮せずに(1)(2)(3)の改善を考えるならば、1 つの方法として Amazon や NDL の書誌リストを用い、図書 1 冊 1 冊をタイトルや ISBN で検索し、各館ごとに所蔵の有無を調べることも考えられる。カーリルを使えば図書館ごとにスクリプトを書く必要もなく簡便であろう。ただ出版年鑑によれば最近 5 年間の新刊書だけで 38 万タイトルに及ぶ為、それが現実的な方法なのかは検証が必要である。

参考文献

- ・石井啓豊 (1990) 「大学図書館蔵書の重複分布と Zipf の法則について」図書館学会年報, 36(3), p.97-107.
- ・石井啓豊ら (1995) 「共同蔵書構築を目的とした蔵書評価の構成方法」図書館学会年報, 41(1), p.31-41.
- ・伊藤昭治, 山本昭和 (1992) 『本をどう選ぶか：公立図書館の蔵書構成』日本図書館研究会, 256p.
- ・加藤ひろの (2009) 「中小公共図書館における蔵書構成と利用の実態について」図書館界, 61(2), p.130-145.
- ・河井弘志編 (1992) 『蔵書構成と図書選択』日本図書館協会, 283p.
- ・岸田和明 (1994) 「利用統計を用いた蔵書評価の手法」情報の科学と技術, 44(6), p.300-305.
- ・公立図書館の経営調査委員会[編] (1997) 『こうすれば利用がふえる：公立図書館の経営』日本図書館研究会, 240p.
- ・日本図書館協会図書館調査事業委員会編 (2009) 「日本の図書館：統計と名簿 2008」日本図書館協会, 596p.
- ・山中みどりら (2009) 「理工学メディアセンターの蔵書評価」Medianet, (16), p.56-59.

NDC	刊年	冊数	貸出率	NDC	所蔵館数	冊数	貸出率
0	2009~2010	14,306	18.3	0	1	314,133	1.6
	2006~2008	44,911	4.7		2~3	78,491	2.9
	2005年以前	404,873	1.0		4~10	72,615	1.9
	不明	4,146	0.1		11以上	2,997	1.9
1	2009~2010	15,405	36.9	1	1	217,292	5.6
	2006~2008	40,164	19.9		2~3	119,070	6.6
	2005年以前	365,814	3.3		4~10	86,693	6.5
	不明	3,854	0.6		11以上	2,182	10.8
2	2009~2010	41,434	28.4	2	1	511,979	3.8
	2006~2008	112,800	13.3		2~3	277,494	4.9
	2005年以前	879,180	1.9		4~10	244,908	4.1
	不明	8,502	0.5		11以上	7,535	5.2
3	2009~2010	57,694	23.8	3	1	796,934	2.6
	2006~2008	180,793	9.5		2~3	436,297	4.2
	2005年以前	1,346,627	1.7		4~10	354,493	4.1
	不明	11,644	0.3		11以上	9,034	5.2
4	2009~2010	25,938	23.3	4	1	289,135	3.7
	2006~2008	78,858	10.6		2~3	203,048	5.2
	2005年以前	587,723	2.6		4~10	202,185	4.2
	不明	5,163	0.6		11以上	3,314	6.2
5	2009~2010	36,686	39.8	5	1	347,149	7.8
	2006~2008	107,263	21.5		2~3	234,549	10.3
	2005年以前	601,067	5.0		4~10	167,339	9.8
	不明	6,183	0.9		11以上	2,162	4.7
6	2009~2010	15,197	25.6	6	1	171,338	4.2
	2006~2008	44,700	12.2		2~3	102,354	6.0
	2005年以前	286,769	2.9		4~10	74,612	5.5
	不明	2,597	0.8		11以上	959	10.9
7	2009~2010	28,729	26.3	7	1	476,350	5.5
	2006~2008	88,754	13.2		2~3	278,426	5.7
	2005年以前	845,414	3.8		4~10	214,517	4.5
	不明	10,424	2.2		11以上	4,028	4.8
8	2009~2010	4,987	27.4	8	1	90,116	5.6
	2006~2008	17,325	13.7		2~3	55,246	6.2
	2005年以前	166,710	3.9		4~10	44,872	3.9
	不明	1,829	0.9		11以上	617	3.4
9	2009~2010	57,166	31.2	9	1	977,615	3.4
	2006~2008	183,283	11.4		2~3	667,179	3.6
	2005年以前	2,067,191	2.0		4~10	616,665	3.5
	不明	17,064	0.4		11以上	63,245	3.4

表 4. 刊年と貸出率

表 5. 所蔵館数と貸出率

NDC	刊年	冊数	貸出率
0	2009~2010	49	18.4
	2006~2008	388	8.2
	2005年以前	2,560	0.6
1	2009~2010	33	66.7
	2006~2008	497	22.7
	2005年以前	1,652	6.1
2	2009~2010	443	36.3
	2006~2008	1,750	7.4
	2005年以前	5,342	1.9
3	2009~2010	429	37.5
	2006~2008	1,891	8.7
	2005年以前	6,714	2.2
4	2009~2010	255	35.3
	2006~2008	473	7.6
	2005年以前	2,586	3.1
5	2009~2010	11	100.0
	2006~2008	372	7.3
	2005年以前	1,779	3.6
6	2009~2010	61	78.7
	2006~2008	134	23.9
	2005年以前	764	3.3
7	2009~2010	204	36.3
	2006~2008	609	8.5
	2005年以前	3,215	2.1
8	2009~2010	0	—
	2006~2008	78	6.4
	2005年以前	539	3.0
9	2009~2010	1,586	33.3
	2006~2008	9,101	7.1
	2005年以前	52,558	1.8

表 6. 所蔵館数 11 館以上の
図書の刊年別貸出率

NDC	増減	刊年	冊数	貸出率
0	1~2増	2009~2010	3460	29.1
		2006~2008	1533	3.6
	3以上増	2009~2010	796	33.2
		2006~2008	0	—
	1~2減	2009~2010	60	16.7
		2006~2008	139	10.1
1	1~2増	2009~2010	3508	53.2
		2006~2008	1013	32.3
	3以上増	2009~2010	962	53.6
		2006~2008	12	33.3
	1~2減	2009~2010	72	27.8
		2006~2008	312	21.5
2	1~2増	2009~2010	8374	35.5
		2006~2008	2675	14.5
	3以上増	2009~2010	3428	42.3
		2006~2008	5	0.0
	1~2減	2009~2010	279	29.7
		2006~2008	1545	20.3
3	1~2増	2009~2010	11305	33.3
		2006~2008	2687	17.3
	3以上増	2009~2010	4784	41.7
		2006~2008	14	14.3
	1~2減	2009~2010	378	20.4
		2006~2008	1265	12.9
4	1~2増	2009~2010	5161	34.7
		2006~2008	1619	17.4
	3以上増	2009~2010	2521	37.2
		2006~2008	20	50.0
	1~2減	2009~2010	215	15.8
		2006~2008	690	12.3
5	1~2増	2009~2010	7664	52.5
		2006~2008	1634	33.0
	3以上増	2009~2010	2571	53.7
		2006~2008	5	0.0
	1~2減	2009~2010	162	25.3
		2006~2008	789	19.8
6	1~2増	2009~2010	3073	37.1
		2006~2008	875	15.3
	3以上増	2009~2010	1028	39.0
		2006~2008	0	—
	1~2減	2009~2010	111	22.5
		2006~2008	464	17.7
7	1~2増	2009~2010	6271	36.0
		2006~2008	1870	22.2
	3以上増	2009~2010	2294	43.8
		2006~2008	0	—
	1~2減	2009~2010	131	24.4
		2006~2008	779	14.9
8	1~2増	2009~2010	1147	36.8
		2006~2008	344	28.8
	3以上増	2009~2010	379	37.2
		2006~2008	0	—
	1~2減	2009~2010	50	32.0
		2006~2008	181	9.9
9	1~2増	2009~2010	10794	43.1
		2006~2008	3863	19.5
	3以上増	2009~2010	5800	50.2
		2006~2008	0	—
	1~2減	2009~2010	384	23.7
		2006~2008	1336	13.5

表 7. 所蔵館数の増減と刊年別貸出率

NDC	タイトル	出版者	刊年	調査1	調査2	調査3	調査4
0	生協の白石さん	講談社	2005	14	14	14	14
1	生きて死ぬ智慧	小学館	2004	15	15	15	15
2	だから、あなたも生きぬいて	講談社	2000	15	15	15	15
3	世田谷一家殺人事件：侵入者たちの告白	草思社	2006	15	15	15	15
4	おかあさんになったアイ	講談社	2001	14	14	14	14
5	文明の主役：エネルギーと人間の物語	新潮社	2000	15	15	15	14
6	俵屋の不思議	世界文化社	1999	14	14	14	14
7	勤九郎とはずがたり	集英社	1991	14	14	13	13
8	問題な日本語：どこがおかしい？何がおかしい？	大修館書店	2004	14	14	14	14
9	ワイルド・スワン 上	講談社	1993	15	15	15	15

表 8. 14 館以上が所蔵し、全調査時点で 1 館も貸出中でなかった図書

NDC	タイトル	出版者	刊年	調査1		調査2		調査3		調査4	
				所蔵	貸出	所蔵	貸出	所蔵	貸出	所蔵	貸出
1	起きていることはすべて正しい：運を戦略的につかむ勝間式4つの技術	ダイヤモンド社	2008	10	10	11	9	11	11	12	6
2	アロハ魂	幻冬舎	2009	2	2	11	11	11	8	11	4
2	それでも、日本人は「戦争」を選んだ	朝日出版社	2009	3	3	14	12	15	12	15	11
2	半島へ、ふたたび	新潮社	2009	10	10	15	14	15	11	15	9
3	炎情：熟年離婚と性	中央公論新社	2009	12	11	12	6	12	4	12	2
3	男おひとりさま道	法研	2009	0	0	10	10	13	11	14	6
3	これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学	早川書房	2010	0	0	0	0	0	0	11	11
3	終の棲み家に翔べない理由	中央公論新社	2009	10	10	13	4	13	3	13	2
3	日本経済の真実：ある日、この国は破産します	幻冬舎	2010	0	0	0	0	0	0	11	10
4	体温を上げると健康になる	サンマーク出版	2009	9	9	11	11	12	12	12	9
4	単純な脳、複雑な「私」または、自分を思い返ししながら進化した脳をめぐる	朝日出版社	2009	11	10	11	7	11	7	11	6
5	体脂肪計タナタの社員食堂：500kcalのまんぷく定食	大和書房	2010	0	0	0	0	1	1	11	11
6	奇跡のリンゴ：「絶対不可能」を覆した農家木村秋則の記録	幻冬舎	2008	12	8	12	10	11	6	11	2
6	フリー（無料）からお金を生み出す新戦略	日本放送出版協会	2009	0	0	2	2	13	12	13	9
6	究極の田んぼ：耕さず肥料も農薬も使わない農業	日本経済新聞出版社	2010	0	0	0	0	0	0	13	12
7	ゲゲゲの女房：人生は…終わりをよければ、すべてよし！！	実業之日本社	2008	10	4	10	3	10	9	11	10
7	高峰秀子の流儀	新潮社	2010	0	0	0	0	6	6	13	12
8	日本人の知らない日本語：なるほど～×爆笑！の日本語「再発見」コミ	メディアファクトリー	2009	8	8	10	9	10	10	9	7
9	余命1ヶ月の花嫁	マガジンハウス	2007	10	10	10	5	10	6	10	3
9	美は惜しみなく奪う	マガジンハウス	2009	11	10	12	5	12	3	12	4
9	Q人生って？	幻冬舎	2009	0	0	11	10	12	6	12	6
9	天使と悪魔 上	角川書店	2003	13	11	13	4	13	4	13	1
9	天使と悪魔 下	角川書店	2003	13	11	13	6	13	3	13	1
9	つくも神さん、お茶ください	新潮社	2009	0	0	0	0	13	13	13	6
9	ザ・万遊記	集英社	2010	0	0	0	0	0	0	12	12
9	ごはんのことばかり100話とちょっと	朝日新聞出版	2009	0							